

～これからの荻窪駅周辺まちづくりを考えるアイデアコンペ～

提 案 要 旨 説 明 書

◆作品タイトル

おぎくぼドレミファタウンDCP構想

◆提案要旨

中央線高架化の見送りにより荻窪の南北が分断したまま 50 年近くが過ぎようとしています。そうした中、地元有志では「21 世紀の荻窪を考える会」を結成し、街づくり活動で南北の一体化を図ろうと、2000 年春に「荻窪音楽祭」をスタートさせ、ようやく地元イベントとして定着しつつあります。

このソフト面での成功を、街のハードウェアにも反映させ、インフラ面でもソフト面でも名実ともに、南北が一体化し、真に新しい文化を創造する拠点として荻窪を再構築したいと考えています。

そうした中、昨年発生した東日本大震災では、街に多くの帰宅困難者があふれ出しました。発災当日の 3 月 11 日の夜は、青梅街道を自宅へ向かう皆さんに、地元商店街と荻窪音楽祭の関係者は、深夜まで公共交通機関等の情報提供に努めておりました。もしこの地震がさらに大きく、火災等が発生した場合、荻窪周辺の木造住宅街の住人は、駅周辺へ避難してくる事態にもなったことでしょう。

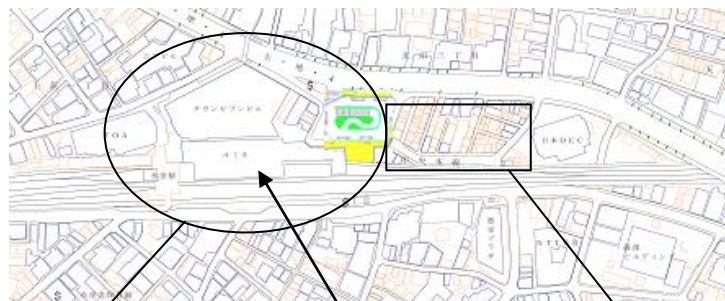
分断されている南北を一体化させる活動と、災害時に荻窪が都内で占めている重要な拠点としての立場、の二つの経験から今回のコンペに次のテーマを提案いたします。

「おぎくぼドレミファタウンDCP構想」

①南北を一体化する「ドレミファ・デッキ」を駅上空の空間に作り、市民の回遊性をはかり、音楽コンテンツをふんだんにちりばめた空間を創出し、荻窪音楽祭や杉コンなどの先行イベントの開催にふさわしい緑と憩いに満ちた広い舞台を作り出します。ただし、この施工にあたり、タウンセブンなどの権利関係の複雑な既存施設の取り扱いについては、建替えと従来建造物の存続と、どちらが選択されても対応できる設計で臨む予定です。

②DCP (District Continuity Plan) の考え方を取り入れ、北口広場地下にガスエンジン発電機を設置し、周辺施設の電力安定化を図ります。それとともに、都市再生緊急整備地域における都市再生安全確保計画に準じる位置づけ確保のもと、上荻 1 丁目の東部街区に再開発を行い、発生する電力と温水を用い、ホテル、プール、スポーツジム、ディケアセンター兼応急救護所、映画館兼演奏会場を備えた高機能耐震建造物を設置し、災害時に、耐震トイレ、非常用通信施設 (FWA 通信使用)、応急医療機能を発揮できる地区防災センターとします。

以上、二つの柱を主眼として「おぎくぼドレミファタウンDCP構想」を提案いたします。



ドレミファ・デッキ

荻窪駅

地区総合防災センター

※なぜこのような提案としたのかの理由や、特に工夫した点、アピールしたい点などを自由に記載してください。

基本プロジェクトの詳細解説

「ドレミファ・デッキによる南北統一と憩い空間の実現」

荻窪駅の上部に南北にまたがる人口地盤によるデッキを建設し、南北の統一を実現させます。

J R乗降客の動線を考え、その動線上に商業施設を展開させ、住民の動線と一体化させた利用性が高い空間を作り出します。かつ、デッキの部材には、柔軟歩道材を用い、緑と憩いに満ちた広い空間とし、荻窪音楽祭の開催場所としてふさわしい舞台を作り出します。

デッキの階段部分やその他の歩行拠点には、クラシック音楽の豆知識を表示させたりする小規模なコーナーを設け、デッキ全体がクラシック音楽のミニ博物館となるようにデザインします。

ただし、この施工にあたり、タウンセブンなどの権利関係の複雑な既存施設の取り扱いについては、建替えと従来建造物の存続と、どちらが選択されても対応できる設計で臨む予定です。

「地区防災センターによるDCP（District Continuity Plan）の実現」

DCP（District Continuity Plan）の考え方を取り入れ、地震災害時にも、電力、通信、トイレといった基幹機能が使用可能な、不沈空母のような強固な拠点（地区総合防災センター）を駅直近に実現させます。

まず、青梅街道のガス中圧管B管に直結させたガスエンジン発電機を北口広場地下に設置し、そこから供給する電力で、周辺施設の電力安定化を諮ります。ガス中圧管によるガスエンジン発電は、震度6強の地震にもガス供給が続く可能性が高く、平常時の電力として活用できるだけでなく、災害時の非常用電源としても機能します（実施例、六本木ヒルズ）。

このエンジンを活用する際、消費されるガスエネルギーの半分は「お湯」となって周辺に破棄されるので、それを活用する施設として、ホテル、スパ、スポーツジム、温水プールを併設させます。

同時にこれらの施設に滞留することになる温水は、災害時のトイレ水洗の水源として活用されることになり、耐震トイレの水源となる仕組みを成立させます。

また、安定電力が担保されるのであれば、総務省で推奨しているFWA通信（長距離無線LAN）を設置させ、他拠点で同様の設備を持つ所との通信が可能になる状態が実現できます。あるいはディケアセンター兼応急救護所といった、災害時のみに機能する応急医療施設の設置も可能となります。

こうして、発生する電力と温水を用い、ホテル、プール、スポーツジム、映画館兼演奏会場を備えた高機能耐震建造物を設置し、災害時に、耐震トイレ、非常用通信施設（FWA通信使用）、応急医療機能を発揮できる地区防災センターとします。

これらを通じて、都市再生緊急整備地域における都市再生安全確保計画に準じる位置づけ確保して、上荻1丁目の東部街区に再開発を行うことが可能です。